

魅力が詰まった京都水族館

中尾 成実

(2018年度入学 鈴木ゼミ2期生)

情緒漂う、歴史的な街並みや寺社の数々。懐かしさを纏った雰囲気、観光客を古き良き時代へタイムスリップさせる街、京都。世界遺産を始め、数多の素晴らしい観光地があるが、私は新しい観光地を提案したい。京都駅からバスに揺られておよそ10分。市街地の喧騒を抜けると、緑が映える憩いの空間が広がる。ここは、花や木に囲まれた、2.5ヘクタールもの広大な芝生広場を有する梅小路公園。その敷地内にあるのが、私の好きな「京都水族館」だ。シックでモダンなデザインの外観。建物を囲むように張り巡らされた水盤。底のコバルトブルーのモザイクタイルは、太陽光に照らされ、キラキラと輝く。清涼感のある雰囲気が、私を爽やかな気持ちにさせる。これからどんな生き物やパフォーマンスに出会えるのだろう、はやる気持ちを抑え、いざ館内へ。



2012年3月14日にオープンした京都水族館。「水と共につながる、いのち」をコンセプトに約250種・総数約1万5千匹もの生き物を

展示している。一般的な水族館は海に面しているが、京都市内は海から約50キロも離れている。そこで、京都でも海を感じてもらおうと日本初の100パーセント人工海水を利用した、京都水族館が誕生した。

入場ゲートを抜けると、柔らかな水の音が入場者を包む。まず出迎えてくれるのは、「京の川ゾーン」。鴨川を始め、京都は川の街であることから、京都ゆかりの生き物にスポットライトを当てているコーナーだ。中でも、特別天然記念物、オオサンショウウオが見どころだ。「生きた化石」、「世界最大の両生類」とも呼ばれる、生態に謎の多い希少生物、オオサンショウウオをじっくりと観察できる。京都水族館では、オオサンショウウオの魅力をより一層知ってもらうために、9月9日をオオサンショウウオの日として日本記念日協会へ申請し、認定された。さらに、館内のショップは、オオサンショウウオのグッズばかり。マスコットキャラクターも存在するほどの熱の入りがぶりだ。



続いて「かいじゅうゾーン」。アザラシやオットセイなど、海獣を展示しているコーナーだ。水槽が円柱型とコの字型になっているので、気持ちよさそうに泳ぐ姿だけでなく、まん丸でクリクリとした目やふわふわな毛の1本1本も間近で観察することができる。ほっと一息、ベンチに腰掛ければ、ふんわり甘い香りに誘われる。その正体は、併設されたショップで売られている、すいぞくパンだ。カメやカニ、イルカなど生き物の形をしたパンで、1日に約500個も売れる大人気商品だ。食べるのがもったいないくらい可愛らしいこのパンを手にとれば、自然と顔がほころぶ。

お腹も心も満たされたら、再び歩き出して、次は「ペンギンゾーン」。ここでは、暖かいアフリカ大陸の南部に住んでいるケープペンギンを見ることができる。よちよちと陸を歩いていたペンギンも、水の中に飛び込めばスイスイと自由自在に泳ぎまわる。京都水族館では、ただ展示するだけでなく、アイドルペンギンを選抜する「推しペン総選挙」を行ったり、ペンギン同士の愛憎劇を図化した「ペンギン相関図」を制作するなど趣向を凝らした独自の展示方法で来館者を楽しませている。さらに、50匹以上のペンギンたちには、「むろ(室町通り)」や「ぼん(先斗町通り)」など京都の通りにち



なんだ名前がついており、フリッパーに付けられたバンドの色の組み合わせで識別できる。ぜひ、自分の推しペンを見つけて欲しい。

続いて、私の一番のお気に入り「大水槽ゾーン」。高さ6メートル、約500トンの人工海水を用いた大水槽は、多種多様な生き物が息づく「京の海」をまるごと表現。

真っ直ぐ伸びる青い光に照らされ、悠々と泳ぐ魚たちは息を飲むほど美しい。まるで竜宮城のように神秘的だ。特に、背を銀色に反射させ、一糸乱れぬ泳ぎを続けるマイワシの群れは一際存在感を放ち、私は時間を忘れるほど見惚れていた。



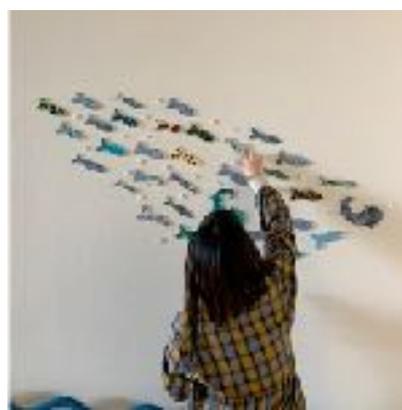
大水槽の余韻を残したまま、次は「海洋ゾーン」へ。西日本最多となる約20種、5000匹のクラゲを展示しており、サイズ、色、形が様々なクラゲを見ることができる。幻想的な空間の中を、プカプカと浮かぶクラゲたちは本当に気持ちよさそうで、私もクラゲになってみたいと一瞬思った。



最後は、飼育水槽とショー会場を兼ねた「イルカスタジアム」。ダイナミックなジャンプなどトレーナーとの息の合ったパフォーマンスが毎日開催されている。パノラマ屋外スタジオからは東寺の五重塔が覗き、春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色と、梅小路公園の四季も感じることができる。

水族館はどこも同じではない。水族館それぞれの個性があるように、京都水族館にしかない魅力がある。それは、館内を彩る装飾品の数々だと考える。例えば、温かく優しい光を放つクラゲ

の形のランプシェード。様々な絵柄で、インスタ映えす



るカラフルなタイル。波をイメージした手すりのうねり。ペンギンの足跡が導く通路など、美術館のような館内は、乙女心をくすぐる可愛らしいものばかり。来館者が、より水族館を楽しめる仕掛けでもてなし、心地よい空間を作っている。京都水族館には、子どもからお年寄りまで、皆が楽しめる魅力が詰まっているのだ。新型コロナウイルスの感染拡大により、我慢ばかりの窮屈な社会になってしまった人間界。そんな世界を知らず優雅に泳ぐ美しい生き物たちに、気分転換に会いに行ってみよう。家族、友達、恋人、大切な人と一緒に。退場ゲートを抜けた時、生き物たちにうっとり魅せられ、スーッと心が軽くなっているはずだから。

◎参考文献

<http://about-kyoto.net>

<http://www.kyoto-aquarium.com>

<http://tabichannel.com>

<http://kyoto-ryo.com/digest/>